

令和 2 年 4 月 17 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
561155

代表者 校 園 名 :	大阪市立本田小学校
校 園 長 名 :	銭本 三千宏
電 話 :	06-6581-1531
事務職員名 :	喜連 尋滋
申請者 校 園 名 :	大阪市立本田小学校
職 名 ・ 名 前 :	首席・流田 賢一
電 話 :	06-6581-1531

令和2年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	資質・能力を育成する国語科の授業設計 ー 深い学びに誘う授業を探る ー			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>資質・能力の育成のためには、学習過程や授業の改善が不可欠である。そのために、主体的・対話的で深い学びの実現が求められている。だが、この深い学びの実現には課題が大きい。定義やイメージが不明だという意見が多いからである。これらのことから、次のことを研究目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資質・能力を育成するために学習過程や授業を改善し、確かな力をつける授業研究 ○ 確かな力を育成するための複数教材を活用した実践の提案 (新教材を活用) ○ 実践する上で課題と感じている「深い学び」を定義し、授業での児童の姿で提案 ○ 学びを積み重ね、児童に思考力・判断力・表現力をつけるための系統指導表の作成 ○ 資質・能力の育成を検証するための学習評価の充実 (PDCAサイクルを回す) ○ 先進的研究校から講師招聘し、公開授業・講演会を企画し、大阪市全体へ拡大、教師の指導力向上へ 			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>以下の4つの柱で研究を推進する。</p> <p>①【主体的・対話的で深い学びを理論研究した上で定義し、実践の中で提案】 それぞれの言葉を定義し、まとめる。特に、深い学びのあり方の理論と実践を往還した研究を中心に据える。研究会参加者の悩みや相談内容を把握し、解決することができる研究会を開催する。</p> <p>②【令和2年度版教科書の新教材を中心に教材分析をし、系統表・複数教材一覧表を作成】 令和2年度版教科書に新教材が多く採用された。系統を意識した指導が、確かな力の育成につながる。そして学期に複数教材を活用することで、指導事項に焦点化した学びとなり学びが充実する。そのため、読むことの系統表・複数教材一覧表を作成する。</p> <p>③【新教材の教材分析と公開授業をセットにした研究会を実施】 次の学期に向けた新教材を中心とした教材分析と深い学びを実現する実践をセットにした公開研究会を実施する。参加者のニーズに応えた学びを提供することで、研究会参加者の指導力向上をめざす。</p> <p>各会のテーマは以下の通りである。</p> <p>公開①テーマ 教材分析研究会 (2学期の新教材中心に分析) : 本田小 (R2年07月01日)</p> <p>公開②テーマ 公開授業研究会 (新教材と深い学びの実践) : 本田小 (R2年11月30日)</p> <p>公開③テーマ 教材分析研究会 (3学期の新教材中心に分析) : 南百済小 (R3年01月07日)</p> <p>公開④テーマ 公開授業研究会 (新教材と深い学びの実践) : 本田小 (R3年2月1日)</p> <p>④【資質・能力の育成を検証するための学習評価の充実】 学びを充実させることは知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力の育成につながるだろう。それに加え、学びの充実が、学びに向かう力の育成につながることを検証する。学力調査や児童アンケートを実施する中で検証していく。</p> <p>以上の内容を実践し、児童に資質・能力を育成する国語科授業の研究を推進する。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>毎月1回以上の国語研修会、年間を通して教材分析、系統指導・複数教材の検討</p> <p>4月 研究テーマ設定、目的・内容の検討、国語研修会（以降月1回以上）</p> <p>5月 教員・児童へのアンケート作成・実施・分析 資質・能力を評価するための方法を検討（アンケート項目等）</p> <p>6月 新教材の分析（東京書籍）と指導事項の整理 教材分析研究会の準備、参加者アンケートの検討・準備</p> <p>7月 新教材の教材分析を中心とした教材分析研究会 講師：筑波大学附属小学校教諭（本田小） 研究会の振り返り、次回の研究会にいかすために参加者のニーズを整理</p> <p>8月 先進的研究校の研究会参加 1学期の実践を振り返り、深い学びの授業像をまとめる</p> <p>9月 公開授業の指導案作成、研修会の伝達講習、 アンケート分析から研究内容を再検討</p> <p>10月 冊子作成（深い学びの授業像、複数教材の一覧表）、提案授業の準備</p> <p>11月 新教材を含む公開授業研究会 講師：筑波大学附属小学校教諭（本田小） 新教材を含む提案授業、深い学びの実践提案</p> <p>12月 教材分析研究会の準備、新教材の分析（光村図書）と指導事項の整理</p> <p>1月 新教材の教材分析を中心とした教材分析研究会 講師：明星大学教授（南百済小）</p> <p>2月 新教材を含む公開授業研究会 講師：明星大学教授（本田小）、深い学びの実践提案 新教材を含む提案授業、深い学びの実践提案 研究成果：説明文と物語文の「複数教材一覧表」「実践例」の冊子 「深い学び」の授業像をまとめる 研究のまとめ作成、教員・児童へのアンケート実施、 事前アンケートとの比較・分析、結果の考察</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p>研究会参加教員のニーズに応える研究会を開催し、深い学びの授業像について実践する見通しを持つことができる提案をする。2回の提案授業と深い学びの授業像についての提案、講師による講演会により、参加者自身が実践につなげることができる考える。</p> <p>＜検証方法＞</p> <p>アンケートを実施し、項目「深い学びについて理解した」の複数回参加者の回答を5ポイント上昇させる。項目「深い学びの提案に満足した」の割合を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p>教材分析研究会に参加することで、実践にいかすことができると回答する教員が増える。そして、成果物として参加者に配付した複数教材一覧表が、実践につながり、焦点化した指導にいかすことができると参加者が考える。</p> <p>＜検証方法＞</p> <p>アンケート項目「教材分析の悩みを解決した」の割合を90%以上、「複数教材一覧表が役立つ」の割合を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p>本研究の系統指導の提案を聞いた研究会の参加者が、系統指導を意識した実践の大切さを知る。それに加え、冊子の内容に満足し、提案内容の賛同割合が増える。系統指導の実践が広がることにより、教員の指導力向上につながる。</p> <p>＜検証方法＞</p> <p>アンケート項目「系統指導は大切」の割合を90%以上、「冊子は役立つ」の割合を90%以上、「系統指導をしている」の複数回参加者を5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p>公開研究会を年間4回複数校で実施し、参加者の悩みを解消できる国語の授業づくり研修を企画・運営する。教材分析研究会と公開授業研究会のセット開催のため、参加者の満足度を高めることができ、教員の研究の輪を広げることができる。</p> <p>＜検証方法＞</p> <p>「授業づくりの悩み」の内容を研究内容や研究会の方向性の再検討に活用し、アンケート項目「研究会に満足」の割合を90%以上にする。参加者合計80名超にする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果5】 児童の資質・能力(知識・技能, 思考力・判断力・表現力)が育成される。これは, 確かな学力の育成と児童のメタ認知による自覚, 学びの姿の変容が見られる。国語科の用語を活用した児童の学びの姿が見られる。 《検証方法》 経年調査の国語科「基礎・活用」で大阪市平均を超える。昨年度比3ポイント上昇する。学びを振り返り, 自分には力がついたと回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果6】 児童の資質・能力(学びに向かう力・人間性)が育成される。これは, 主体的に学習に取り組む態度を「粘り強く学習に取り組む態度」と「自ら学習を調整しようとする態度」とメタ認知による自覚で検証する。 《検証方法》 深い学びを実現した単元で児童へのアンケート項目「課題に解決に向けて最後まで取り組んだ」「分からないことがあるとき, どう行動するか考えた」の割合を90%以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日(令和3年2月22日)までに必ず行ってください。 ○研究発表の日程・場所(予定)</p> <table border="1" data-bbox="448 707 1362 775"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 2 月 1 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立本田小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>教材分析研究会と公開授業研究会をセットで2回開催する 研究会の講師で他校に取り組み内容を広める 雑誌や本に執筆することで, 取り組み内容を広める</p>	日程	令和 3 年 2 月 1 日	場所	大阪市立本田小学校
日程	令和 3 年 2 月 1 日	場所	大阪市立本田小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>今回の学習指導要領では、(1)目標及び内容の構成の改善(2)学習内容の改善・充実(3)学習の系統性の重視(4)授業改善のための言語活動の創意工夫(5)読書指導の改善・充実が図られている。本研究の申請者 本田小学校 流田賢一首席は平成29年度より今回の学習指導要領改訂の趣旨及び教育内容の改善事項の研究に先行して取り組み、その成果を全市及び全国に発信してきた。今回、初めて取り組む研究はこの先行研究を基礎理論とした「新教材を活用した深い学びへの挑戦」である。児童が教えられたことを暗記したり、決まった手順を繰り返したりするのではなく、教科における学問的な探究をしたり、自ら「教科の本質」を深めたりすることを「教科する(doin of a subject)」というが、本研究は「国語科の新教材による教科する授業」への挑戦である。全国の国語教育をけん引する研究になることを期待している。</p>				